

「24卒内定者へインタビュー～就職活動のはじめ・キャリアを考える際に参考にしよう～」

3年生の4月頃からキャリアや就職活動について考え始める方もいるのではないのでしょうか。私たち、キャリアセンター公認団体の学生キャリアボランティア（SCV）は、ぜひキャリアや就職活動を考える際に先輩方の経験を参考にさせていただきたく、24卒内定者の方々にアンケートを行いました。

「何から始めればいいのか分からない」、「就職活動のスケジュールってどんな感じかな」と疑問や不安を持っている方、ぜひこのアンケートを参考にしてみてください！

【アンケート調査概要】

ビズリーチキャンパス様を通じてアンケート調査をさせていただきました。

対象者：ビズリーチキャンパスに登録している早稲田大学、大学院の学生の24卒内定者

回答数：15名（文系学部生：13名、理系学部生0名、文系修士学生：1名、理系修士学生：1名）

アンケート調査期間：2024年3月7日～3月14日

【アンケート結果】

＜入社業界・入社予定の企業について＞

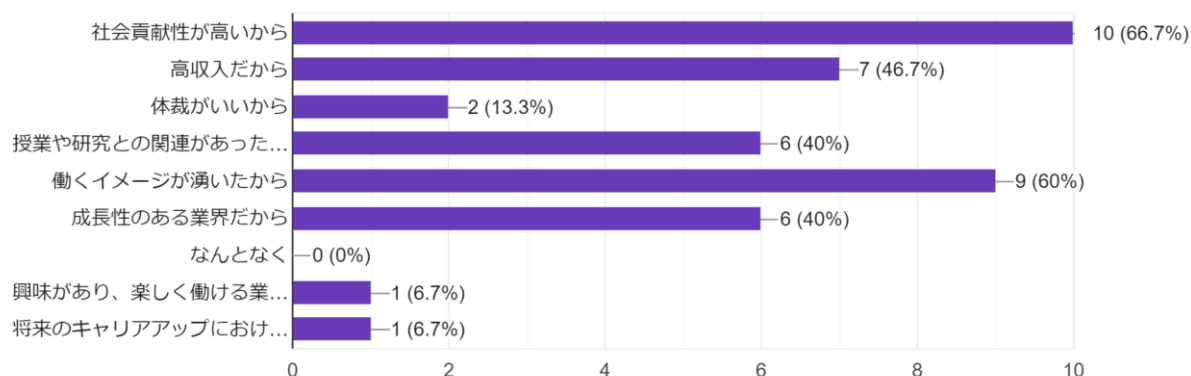
入社業界	入社予定の企業
運輸・倉庫（運輸）	西日本旅客鉄道株式会社
	日本郵政株式会社
メーカー（建設・住宅・不動産）	三菱地所株式会社
	三井不動産レジデンシャル株式会社
メーカー（農業・林業・鉱業・漁業・酪農畜産）	サントリーホールディングス株式会社
メーカー（精密機器・医療用機器）	株式会社島津製作所
エネルギー	東京電力ホールディングス株式会社
金融（その他金融）	株式会社国際協力銀行
	M&Aキャピタルパートナーズ株式会社
金融（証券・投信・投資顧問）	大和証券株式会社
金融（保険）	第一生命株式会社
サービス（人材紹介・人材派遣）	パーソルキャリア株式会社
その他	東急株式会社

<入社予定業界を選んだ理由について>

入社予定業界を選んだ理由について、「社会貢献性の高さ」を重視する傾向が見られました。また、「働くイメージが湧いた」という入社後のイメージのしやすさも、業界選択において重視されていることが分かりました。

なぜ入社予定の業界を選んだのですか？（複数回答可）

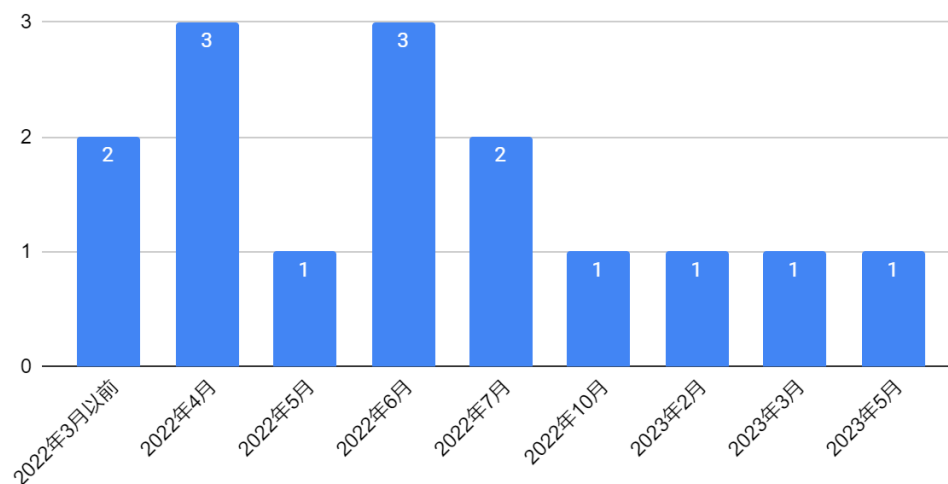
15件の回答



<就職活動の開始時期>

就職活動の開始時期についての回答から、24卒にとって本エントリー開始である2023年3月（2年生3月※新3年生を迎える前）よりも1年以上前である、2022年3月以前より就職活動を開始している学生もいることが分かりました。また、アンケートに回答した半数以上である11名が、本エントリー開始の前年の夏までに就職活動を開始していました。一方で本エントリー開始時期以降に就職活動を開始している方もいることが分かります。

「いつ頃から就活を始めましたか？」



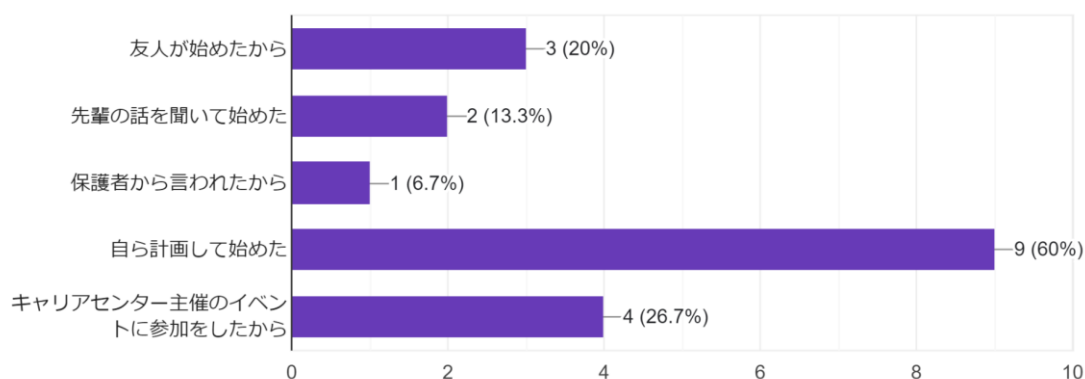
「いつ頃から就活を始めましたか？」のカウント数

<就職活動を始めたきっかけについて>

就職活動を始めたきっかけについて、最も多い回答は「自ら計画して始めた」であり、自分から動き始めた学生が多いことが分かりました。また、他にも「キャリアセンター主催のイベントに参加したから」などイベント参加をきっかけにした方や、「友人が始めたから」というような周囲の影響を受けて就職活動を始めた方もいることが分かります。

就活を始めたきっかけは何でしたか？（複数回答可）

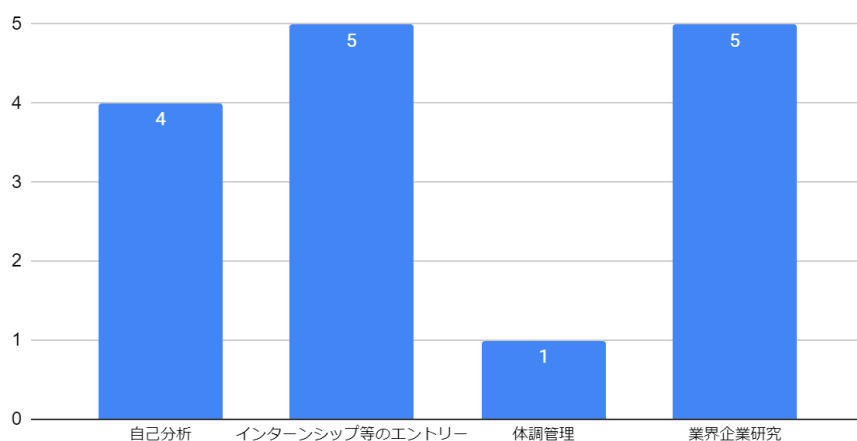
15件の回答



<就職活動を経験したうえで最も重要だったことについて>

就職活動を経験したうえで最も重要だったことに関して、「インターンシップ等のエントリー」、「業界企業研究」の2つが最も回答数が多くなりました。インターンシップ等にエントリーすることの重要性や業界や企業について知ることの重要性が分かりました。また、「自己分析」も重要だったこととして、多く回答しており、自分の性質ややりたいことについて知ることが就職活動において重要であると分かります。

「就職活動を経験したうえで最も重要だったことは何ですか？」

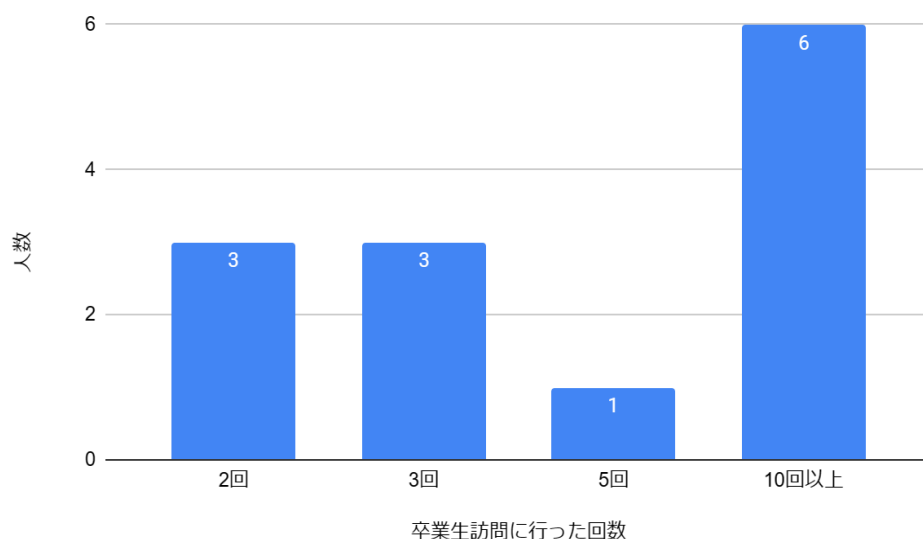


就職活動を経験したうえで最も重要だったことは何ですか？

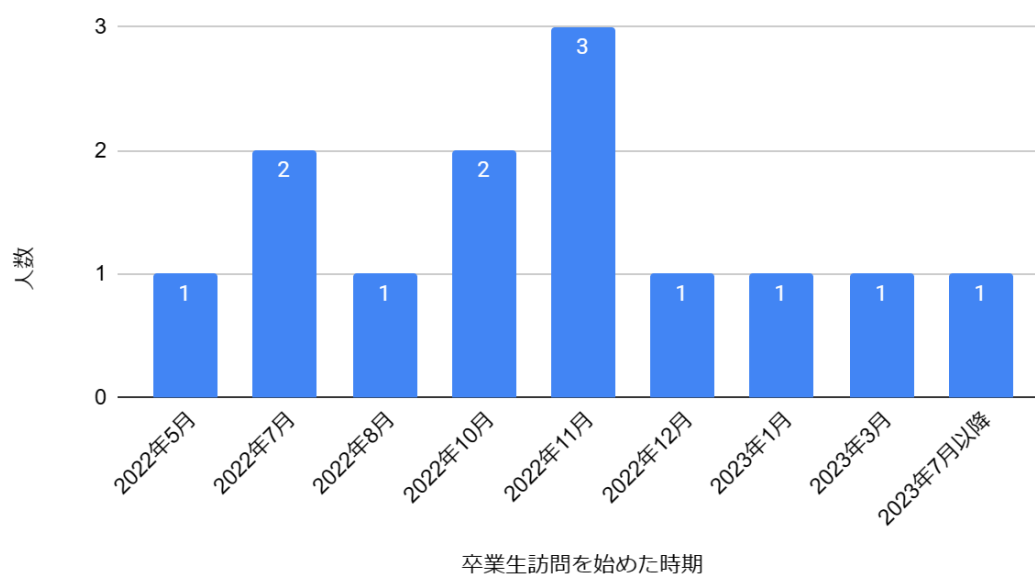
<卒業生訪問について>

卒業生訪問を始めた時期は、人それぞれ。最も多かったのは2022年の11月、すなわち学部3年生の11月でした。ただ、最も早かった人で2022年5月、最も遅い人で2023年7月以降と、幅があることが分かりました。また、卒業生訪問の回数に関しては、回答した15名のうち2名は0回で、約半数である6名は10回以上！次いで、2回と3回が多いという結果に。このように、卒業生訪問の回数にも個人差があることが見て取れます。

「卒業生訪問は何回行きましたか？」



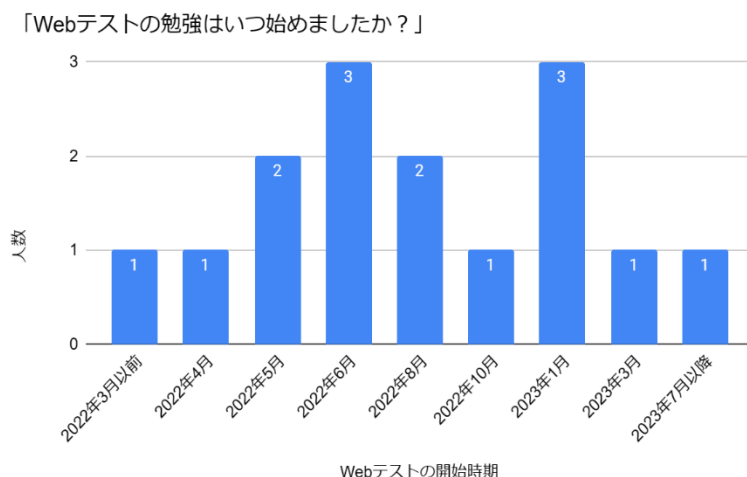
「卒業生訪問を始めた時期はいつですか？」



＜Webテストの勉強について＞

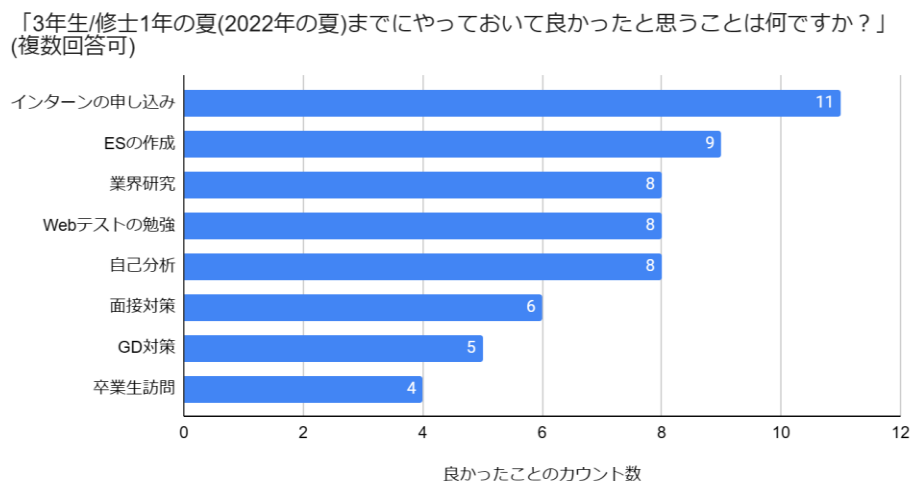
Webテスト対策の勉強を始めた時期は人によってさまざま。特に多かったのは2022年6月（学部3年生の6月）と2023年1月（学部3年生の1月）でしたが、2022年3月以前から2023年7月以降に至るまであまり大きな差はなく、回答が散らばる結果となりました。

また、対策ツールとして有効だった書籍として『史上最強SPI&テストセンター超実践問題集』や『これが本当の〇〇だ！』シリーズの回答多数。また、自分が受ける企業の過去問が公開されている場合は、解いて対策しておくのが◎。



＜3年生／修士1年の夏(2022年の夏)までにやっておいて良かったと思うこと＞

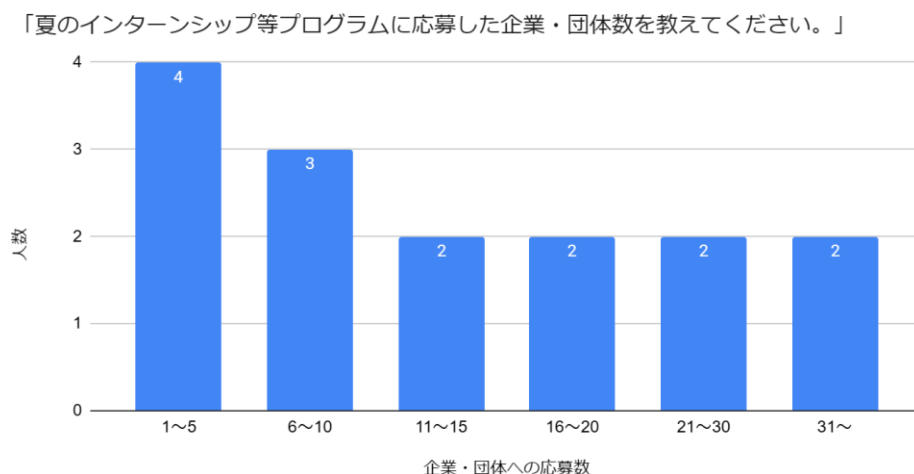
「インターンの申し込み」が11票と最も多かったものの、「ESの作成」や「自己分析」、「業界研究」「Webテストの勉強」も多く挙げられました。3年生／修士1年の夏までに、出来ることから少しずつ就活準備を始めておくのが理想的であると言えるでしょう。



「夏のインターンシップ等について」

＜夏のインターンシップ等プログラムに応募した企業・団体数＞

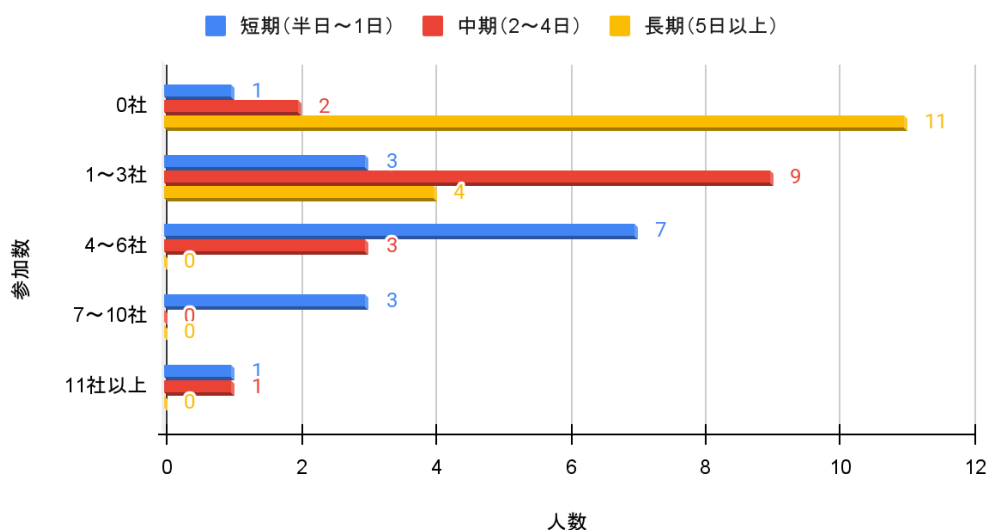
以下のグラフから分かる通り、夏のインターンシップ等プログラムへの応募数は、1社から31社以上に至るまで、個人差が非常に大きいです。



また、プログラムの期間別に、参加数の傾向には大きな違いが見られました。15人中11人が長期（5日以上）プログラムには一度も参加しておらず、最も参加数の多い回答でも3社にとどまっています。

その一方で、短期プログラムの平均参加数は約6社、中期プログラムの平均参加数は約3社と、長期プログラムに比べて参加する人が多い傾向が顕著です。ただし、（以下のグラフでは11社以上の範囲に含まれている）回答者の一名は、短期プログラムに21社以上、そして中期プログラムに15社以上参加していました。このように、プログラムへの参加数にも個人差が大きいことが分かります。

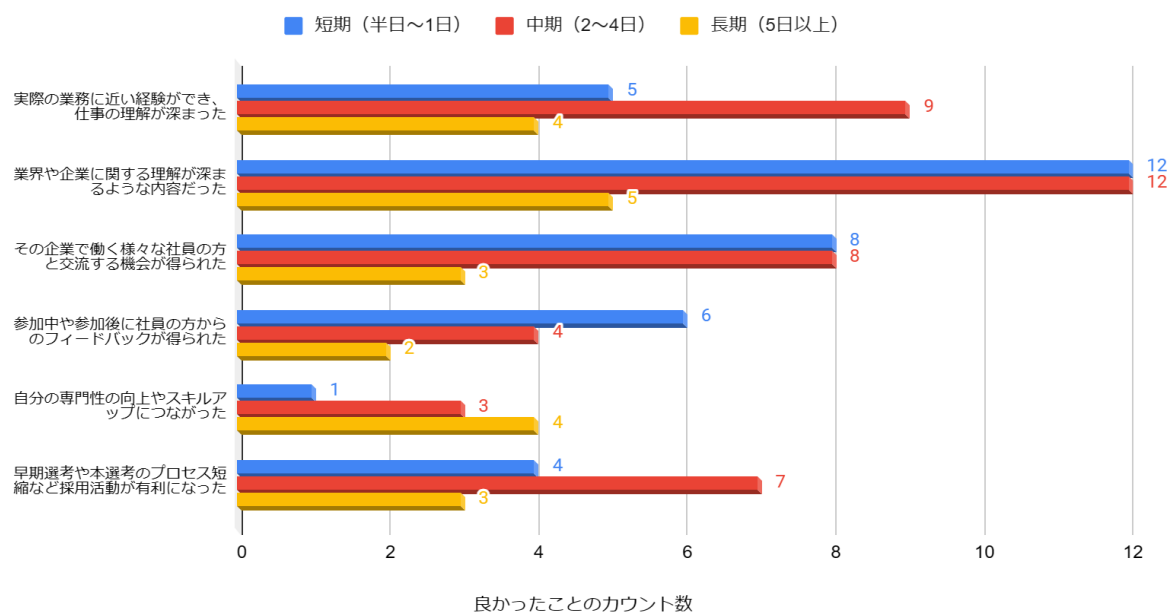
「何社のプログラムに参加しましたか」



<プログラムに参加して良かったこと>

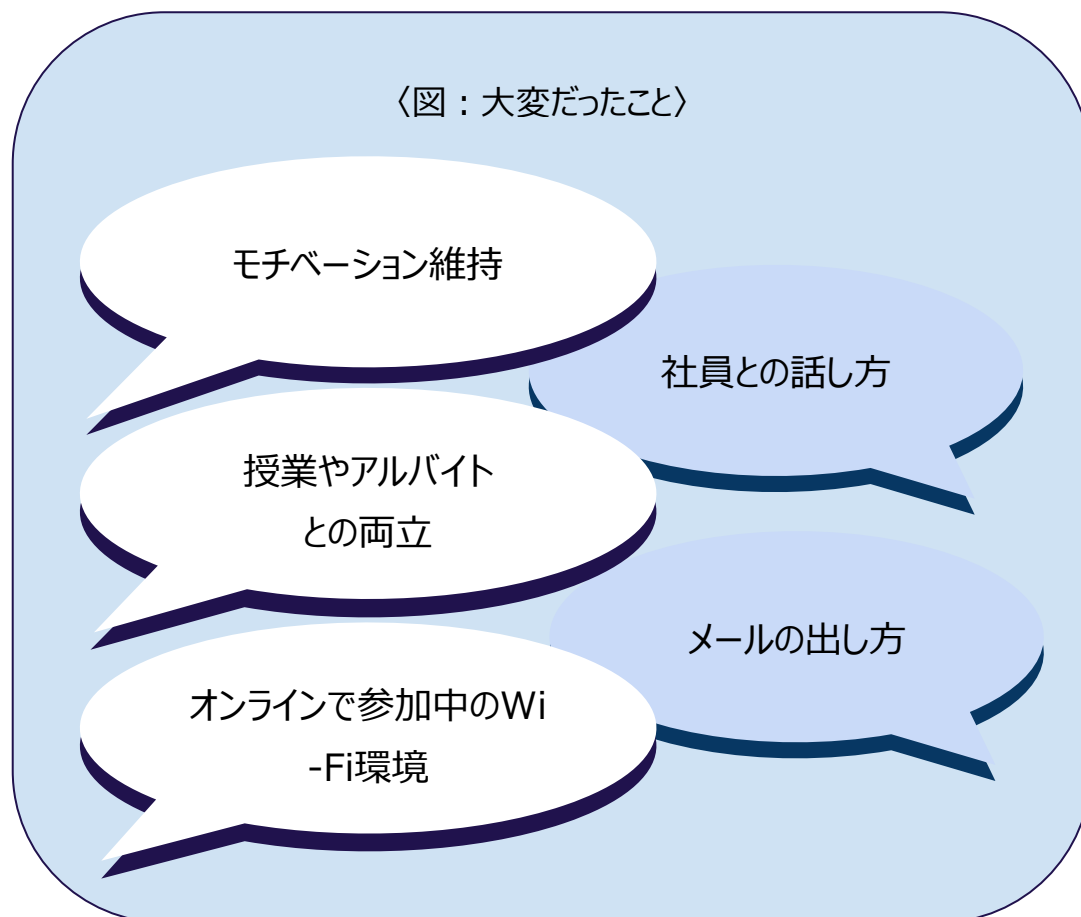
短期・中期・長期プログラムそれぞれの、参加して良かったことを尋ねたところ、業界や企業に関する理解が深まり、企業の社員の方との交流機会を得られるという回答が多い点で共通していました。また、短期プログラムに比べて、中期・長期プログラムでは、実際の業務に近い経験ができる傾向があると言えるかもしれません。ただし、採用活動において有利に働くという点においては、短期であっても有効であることが分かります。

「プログラムに参加して良かったことを教えてください」（複数回答可）



＜夏のインターンシップ等において大変だったこと＞

先輩からは下の図のような意見が。インターンシップ参加前に、メールのマナーを確認しておいたり、Wi-Fi環境を万全に整えたりと、事前の対策が有効なものに関しては準備しておくのが◎



＜就職活動における失敗談について＞

「業界研究不足」、「Wi-Fi環境」、「体調管理」、「テスト勉強不足」、「予定管理」など就職活動の中で失敗したと感じた経験がある方もいるようです。これから就職活動を始めるあるいは就職活動をしている学生は事前準備をしっかりと万全な状態で取り組めると良いですね。

<24内定者から後輩へメッセージ>

就活は縁だとよく言いますが、まさにその通りだとつくづく感じます。僕はこの会社以外考えられないと思える会社が見つかるまでとても辛かったですが、今はとても満足しています。試行錯誤は無駄にならないので、失敗しながらもとにかく行動し続けてください。皆さんの成功を心から祈っていますし、力になれることがあれば何でもサポートさせていただきます。自分を信じて頑張ってください！！

どれが正解の選択肢かは自分次第です！自分が納得できる選択をしてください！

就活は楽しい。全く楽しくないようなら受けている業界や自分の就活軸等を一度立ち止まって見直してみる
といいかもしれない。

【SCVからのコメント】

人によって、思い描くキャリアは異なると思います。また、就職活動のゴールも人によって様々だと思います。これから就職活動に臨む皆さんが、自分に合ったキャリアを選ぶことができることを願ってます。また、この記事が少しでも、そのサポートができれば、幸いです。

稲垣

就職活動のやり方は人それぞれです。24卒内定者の就職活動を参考に自分にあった方法を見つけてください。この記事がこれから就職活動を始める皆さんにとって少しでも役に立つものであれば幸いです。

石坂

調査結果からも見て取れるように、就職活動の進め方は十人十色です。「絶対にこうしなければいけない」という正解はありません。周りの影響を過剰に受けることなく、自分のペースで、着実に、出来ることからまずは行動してみることが大切だと思います。この記事が、その一歩を後押しするきっかけとなれば嬉しいです。

川本

調査・編集担当 <SCV>

石坂彩葉（教育学部・2年）

川本優梨子（文学部・2年）

稲垣結音（文化構想学部・3年）

※アンケート調査時点（2024.3）での学年です

掲載日：2024年4月11日